



学ぼう

なっとく科学の 1冊

日本の宇宙開発 夢と現実

宇宙開発の仕事をしていれば、人間を宇宙へ送る「有人宇宙開発」を手がけたいくなる。技術者や研究者から、こんなことをよく聞かされる。

だが、現実には厳しい。日本には有人計画も長期戦略もない。それより、ビジネス、安全保障、外交などに宇宙開発を役立てる

宇宙開発の仕事をしてい

ば、人間を宇宙へ送る「有人宇

宙開発」を手がけたいくなる。

技術者や研究者から、こんなこ

とをよく聞かされる。

だが、現実には厳しい。日本に

は有人計画も長期戦略もない。

それより、ビジネス、安全保障、

外交などに宇宙開発を役立てる

ことが、今の政府の方針だ。

そんな世間の風も影響してい

るのか。宇宙が好きで宇宙航空

研究開発機構に就職した職員

も、日々の仕事に追われ、夢や

あこがれを忘れがちという。一

方、一般の人は「国の財政が苦

しいのに、宇宙へ人を送る必要

があるのか」と疑問を抱く。

「日本の宇宙探検」(宇宙機

構有人宇宙ミッション検討のミ

エル化チーム著、日経印刷)は、

閉塞感を破り、人

々の疑問に答えよ

うと、宇宙機構の

有志で作成した。

宇宙へ行きたい理

由、行きたくない

理由を調査し、支持されそうな

宇宙船の案や、技術を紹介。有

人宇宙開発の歴史や基礎知識も

盛り込んだ。

税込みで500円。全国民が

1年にこの額を出せば、「10年

後には毎年1機、宇

宙船を打ち上げられ

る」との思いを込め

た。宇宙機構も「日

からインターネット

で寄付金を募り始め

た。何をどう進めるか。宇宙計

画も皆で考える時代に入ったよ

うだ。(編集委員・知野恵子)



*「学ぼう わかるサイエンス」面へのご意見は科学部へ。ファクス(03・3217・8169)か、電子メール(t-kagakubu@yomiuri.com)でお寄せ下さい。